2021年度 こひつじこども園 自己評価

<はじめに>

2021年度は、こひつじこども園が、泉北ニュータウンで初めての認可保育園として創立されて 50 年を迎える節目の年でした。コロナ感染禍の最中にあり、コンサートや記念礼拝などの創立記念行事が中止となりましたが、記念絵本『わたしのひつじをかいなさい』や創立 50 周年記念の PTA 文集などは、保護者や関係の方々のご協力を得て、発刊することができました。また、こども園の行事を通して、子どもたちと、創立 50 周年をお祝いする活動ができたことは、嬉しいことでした。

中止になったのは記念行事だけでなく、今年度も１年を通して、緊急事態宣言や蔓延防止措置法が度々発令され、コロナ感染症への対応を余儀なくされました。昨年度に引き続き、感染を予防しながら子どもたちの育ちを守る保育とは何か、模索しながらの保育になりました。子どもたちの自然のままの姿を大切にして、大人が気をつけて感染を防いでいくところに力点をおいて取組んでいましたが、2022 年に入り流行したオミクロン型のコロナ感染については、幼い子どもからの感染も発生し、園関係者の感染のため園の一部を閉めざるを得ない状況が生じました。たいへん残念でしたが、私たちが、大事にしてきた自分の活動を自分で選ぶというセンター活動を見合わせざるを得なくなりました。

そんな中でも、なんとか保育を行うことができ、子どもたちの笑顔が守られたことを感謝しています。

<保育目標>

こひつじこども園の保育基本方針には「キリスト教精神に基づいた保育」が掲げられています。また、全体の大きな目標として、「神と人とを愛し、愛される子どもに育てる」ことを謳っています。

保育教育目標は、年間の目標を、園全体、年齢ごとに設定しています。また、それとは別に、１年間を、ホーム（2～5歳児の幼児 15～18 名のグループ）は8期、スィート（0～2歳児の乳児3～5名のグループ）では７期に区切って、それを「ユニット」と呼び、そのユニットごとに、各年齢別に目標を設定しています。

保育目標や基本方針、またユニットごとの目標（保育のねらい）については、新入園児説明会や入園式、園だよりなどを通して、保護者の方にも周知を図っています。園のグループごとの実態に添うようにグループ単位の目標も設定し、その中で個別の子どもの目標もたてています。

昨年度は書面で行うことが多かった懇談会ですが、本年度はリモートで行うことができました。園としての方針や課題を間接的ではありましたが、お顔を見てお伝えできるように努力いたしました。

<保育内容>

こども園全体を3つのファミリー（ひかり、かぜ、いずみ）に分け、保育に当たっています。それぞれのファミリーには、2つのホームと4つのスィートがあります。具体的には、1階と2階にそれぞれ1ホーム、2スィートが同居しています。それぞれのファミリーの独立が保たれるように建物が設計されています。園全体として保育内容を共有するために、ファミリーを超えての会議や話し合いも定期的に行っています。

保育室は、家庭的で温かな雰囲気を大事にし、子どもたちが自発的に好きな遊びができるように、ままごと、のりもの、指先、絵本、チャーム（ごっこ遊び）など多彩なコーナーを用意しています。子どもの興味に応じていろいろな遊びが経験できるように、配慮しています。提供している玩具の種類や数が子どもたちの発達や遊びにあっているかどうかの検討をユニットごとに行っています。

ホーム児は、10:00～12:00 の時間、クラスやセンター活動が用意されています。クラスは年齢別の活動で、年長になるにしたがって、回数が増えていきます。センター活動は、子どもたちの主体性や自主性を高めるための取組で、自分のしたい活動を自分で選んで参加します。センターには、「子どもたちの 10 の姿」を念頭においたセンターがあります。しぜんワーシップ(生命・宗教)、おんがく、うんどう、おはなし(絵本・言語)、たいけん(ごっこ遊び・訪問など)、かたち(造形)、マナ(食育)、わらべうた(伝統文化)などの8つのセンターが用意されています。子どもたちが喜んで選べるような内容であるか、開くセンターの数は適当か、活動に必要な援助が得られているか、など検討しながら行っています。

このように、センター活動でもクラス活動でも、それぞれのホームから子どもたちが集まってくるので、基本的にこひつじこども園の保育形態は共同保育となります。コロナ感染がおこった場合に濃厚接触者の特定が難しいという課題がありました。

縦割りの異年齢保育を基本としたグループ担任制をとって 25 年以上になります。

0～5 歳児までの異年齢の子どもたちが同室ですごしていることで、子どもたちは小さな子どもへのやさしさや、大き

い子どもへの憧れなど、様々な経験を通して、他では味わえない豊かな力を身に着けていきます。

0～5 歳児が同居する中で、乳児の安全や睡眠については、一定のレベルで守られています。幼児の遊びの保証については、ホーム専用のお座敷台や年中・年長用の高机などが用意されています。

例年では夏期保育中には、ホームだけが利用できるホーム児専用室を用意していましたが、コロナ感染予防のため、昨年度に引き続き今年度も見送ることにいたしました。来年度は、コロナの感染状況を見ながらですが、夏期保育中のホーム専用室を設け、ホーム児の活動を充実させていくことを願っています。

また、こうまぐみ（年長児）は、今年度は、9 月より毎日午睡なしとし（昨年は 10 月中旬より）、活動を充実させました。

＜発達援助＞

同じ部屋ですごすファミリーの会議、ファミリーを超えた年齢の会議などで、子どもの発達状況を確認し合い、保育計画をたてるようにしています。担任だけでなく、複数の目で、一人ひとりの子どもを把握しています。

発達上の課題がある子については、専門家のアドバイスを受けながら、保護者と連携をとるようにしています。また、会議などを通して、園全体で情報を共有できるようにしています。援助について、もっと具体的に深めていくことが必要だと感じ、今年度も、堺市の障害児視察の専門家に個別相談を受けながら援助を行ってきました。

＜食事・健康管理＞

調理室をマナファミリーと呼び、マナセンターと呼ばれる保育（食育）活動を計画的に行っています。

一人ひとりの個人差や食欲に応じて、量が加減できるように工夫しています。0～2歳児については、喫食状況を連絡帳を通じて家庭に知らせています。 ・ホーム児には、自主性をうながす取組としてカフェテリアで食事をする時間を用意しています。カフェテリアは 11:30～13:00 頃まで開いている、セルフサービス式の食堂です。子どもたちは、好きな時に好きな友達と一緒に行って、食事をします。昨年度に引続き今年度も、コロナの感染状況によって、カフェテリアを継続して実施することが難しい状況でした。

こひつじこども園では、職員は、子どもと一緒に同じ給食を食べることを「食育」の基本として保育を行ってきました。「食べることは生きること」ととらえ、ともに会話を楽しみながら食事をとることが、生きる喜びにつながると考えていました。ただ、残念ですがコロナ感染予防のため、子どもと一緒に食事を取止めるざるをえないことが多くありました。今後の感染状況を見ながら、子どもと一緒に食事をとる取組みを行っていきたいと思っています。

食物アレルギー児には、医者による意見書を提出してもらい、家庭とも連携をとりながら、除去食を提供しています。乳児食・アレルギー食担当の保育者と調理の担当者が集まり、除去食の確認を行っています。アナフィラキシーが心配される子どもには、職員が一人ついて食事を提供しています。

感染症の対応については、園での発生状況を必要に応じて、「おしらせナース」の掲示板を登降園のタッチパネルの横に設置して、保護者に知らせています。

嘔吐の処理については、それぞれのお部屋に処理グッズを置いて対応しています。

コロナ感染対策として、毎朝の検温、マスク着用、手洗いなどの基本的な感染対策をしっかりすると同時に、手指消毒にはアルコール、玩具やお部屋の消毒にはアルカリ水を用いて消毒を行っています。

＜行事＞

子どもたちにとって楽しい行事となるように、保護者に見せるための行事ではなく、日ごろの保育に根差した行事計画をたてるようにしています。各行事には、実行委員会が設けられ、委員会を中心に計画・実施しています。

こひつじこども園には、お楽しみ会、あそBOフェスタ、クリスマス会など、保護者の方の参加をお願いするユニークな行事の他に、ホーム親子遠足や年長児対象のお別れ遠足、ホームバイキングや世界の国祭り、ホームお別れ会など、保護者の方にご協力をお願いしたり、子どもたちと保育者が準備し行っている行事がありました。今年度も昨年に引き続き、すべての行事に見直しを余儀なくされました。一つ一つの行事を、安全に子どもたちにとって楽しい行事となるよう検討しました。保護者と一緒の行事が難しくなりましたが、オンラインなども駆使して取り組みました。こうまぐみのお別れ遠足は、今年度も親子ではなく職員と年長児だけで行われ、楽しくすごすことができました。

＜研修・研究＞

こども園全体の研修として、秋と年度末に、年に 2 回行っています。今年度の園内研修は、大勢で集まることを避けて、リモートを駆使して行いました。こひつじこども園創立 50 周年の振り返りを行い、これまでの歴史をスライドを

通して学びました。また、第三者評価に向けて、自分たちの保育の見直しを行いました。

その研修とは別に、個人で必要な研修が受けられるように、研修日や金銭的な補助を行っています。毎年、ほとんどの職員が、自主的に各種の研修に参加しています。参加した研修については、春夏秋年度末の年に４回の研修報告の場を設けています。

それぞれのファミリーでは今年度は「心が満たされる」をテーマに取り組みました。実施したことや分かったことを園内に掲示し、子どもや保護者との共有を図りました。

また、今年度も引き続きキャリアパス研修などに参加するとともに、堺市や社会福祉協議会、キリスト教保育団体の主催する「研修」にも積極的に参加するようにしました。リモートで行われる研修も多くありました。公平に、なるべく多くの職員が様々な研修に参加し、自己研鑽の機会を得るようにしています。

＜動物飼育＞

犬や小鳥、ヤギやアヒルなどの家畜の飼育を行っています。動物を通じて、生き物に興味をもったり、ものを言わない動物の気持ちを汲み取り世話をしたりかわいがったりすることで、思いやりの心が子どもたちに育っていき、命のぬくもり、生きている喜びを味わえることを願っています。

動物アレルギーの子どもたちへの対処をどのようにしていくかが課題です。アレルギー児は2階保育室で生活したり、動物の飼う場所を限定するなどの対策を行っていますが、影響をゼロにすることは難しい状態です。入園説明会などで説明を丁寧に、保護者の理解を根気よく求めていきたいと思っています。

＜情報の発信＞

ホームページは月１回、「今日の給食」のブログは毎日更新、「今日のこひつじこども園」のブログは随時、施設の情報を内外に発信しています。更新の頻度が少なく、今後の課題です。

また、保護者向けには、園だより、給食だより、ファミリーだより、クラスだより、保健だよりなど、各種おたよりを出しています。保育の内容の発信については、今年も、写真を使った掲示をたくさん行い、保育の内容を目で見えるかたちで発信しました。

情報の発信ではありませんが、保護者に向けて「保育参加」の取組みを行っています。保護者の都合のいい時に来ていただいて、普段のありのままの子どもたちの姿を知っていただき、子どもたちの世界を味わっていただく活動です。好評をいただいています。

園からの急な連絡に、よいこネットを用いています。来年度は、よい子ネットの機能が新しくなり、保護者への情報発信がさらに豊かになると思っております。

＜地域交流＞

例年では、地域の老人施設や障がい者施設と交流しており、年間で計画をたてて交流しているところや、随時、訪問しているところなどがありました。今年度はすべて取止めとなりました。

コロナ禍以前には、地域のお年寄りに向けて「こひつじ de ランチ」という、子どもたちと給食を召し上がっていただく催しを月２回行っていました。もともと、一人暮らしのシニアが、子どもたちと日常的に、いつでも来て食事をしていただくことを趣旨として始めた取組みです。ただ、昨年度に引き続き今年度も実施できませんでした。

地域交流のためのファミリーを、にじファミリーと呼んでいます。園庭開放や近隣の方や泉北ニュータウン教会員の方が来られて子どもたちと一緒に楽しむ企画をしていました。今年度は、園庭開放については、コロナの感染状況を見ながら、期間をしぼり規模を縮小して行いました。

「放課後等デイサービスこひつじ」がにじ室にてオープンして４年になりました。卒園児も多く通っており、同じ建物を利用している中で、自然な交流ができていますが、今年度はそれ以上に発展させることはできませんでした。感染状況を見ながら、今後の課題としてまいります。

ただ、有志のメンバーが、法人とは独立して、こども園のカフェテリアを使って「みんなの食堂」を2022年１月より、月に１回の目処で開店いたしました。子どもを含めた広くたくさんの安価な値段で、食事を提供する試みです。法人としては、場所をお貸ししているだけですが、職員や教会の方々もボランティアでお手伝いしています。

これからも保育者にも子どもにもボランティアの人にも無理なく、地域の方が喜んでくださる活動を続けていくためにはどうしたらよいか、考えていきたいと願っています。

<子育て支援>

地域の子育てセンターとして、毎日、園庭開放を行っています。毎週水曜日には、保育者が出て園庭開放を担当しています。ただ、今年度は、大阪コロナ赤信号の間はお休みさせていただきました。

堺市からの委託事業として、赤ちゃん訪問、一時保育などを行っています。また、地域からの要請で、うさちゃんクラブ（乳幼児対象のあそび場）に協力しています。

本園には、保育経験の豊富な保育者が多く、それぞれ個別に子育て相談に応じています。

懇談会などで、保護者の子育ての悩みに応えるようにしていますが、子育て講習などに発展させていくことが今後の課題です。

<卒園児との交流>

多様な人間関係を用意するために、卒園児は中学3年生になるまで、年3回のこども園の行事に、一人ひとりに案内状を出して招待していましたが、昨年度はコロナ感染予防のため、全ての行事で卒園児の招待は断念いたしました。

今年度は、対象を限定して部分的でしたが、行うことができました。お葉書やカードを送ったりもして、ささやかですが交流を試みました。

卒園児を中心とした「ことこと倶楽部」が土曜日の午前中、年間 20 回ぐらいの頻度で開催されています。お琴や三味線、尺八などの演奏をしたり、邦楽に親しむ貴重な機会で、前半の「わらべうた」の時間には、土曜保育の園児も参加しています。多彩な講師とゲストの先生が来られ、園とコラボレーションして、コンサートを行うこともありました。しかし、コロナ感染の拡大にともない、縮小せざるを得ませんでした。来年度も感染がどうなるか分かりませんが、状況の許す限り、園として「ことこと倶楽部」を応援していきたいと思っております。

<第三者評価を受けて>

創立 50 周年を機に、自分たちの保育の強みと弱みを再確認しようと、4 年ぶりに第三者評価を受審いたしました。保護者の方にもアンケートなどにご協力いただき、率直なご意見をいただきました。結果については、こひつじこども園のホームページや独立行政法人福祉医療機構の WAM NET（ワムネット）に掲載しています。指摘いただいた事項で、すぐに取り組めることは、すでに改善をいたしました。長く取り組んでいかないといけない指摘については、今後の課題として、改善してまいります。

<安全対策について>

2022 年 1 月に、こうまぐみ（年長児）の午後の活動時間に、園の隣の公園にて自由遊びの後、かくれんぼをしていた児に気づかず、置いて帰ってきてしまったという事態が起こりました。本児が自分で園に帰ってきて門の外で泣いていた姿を発見され、幸い大事にはいたりませんでしたが、あってはならないことでした。

保護者への謝罪はもちろんですが、全保護者への周知を行いました。堺市に報告するとともに、職員には「戸外散歩の留意点」を用いて、点呼の徹底を確認するとともに、午後のこうまぐみの活動体制についても、見直を行い、再発の防止を図っています。

保護者の方から、その他の安全面へのご指摘も多くいただきました。その多くが朝夕の自由時間に関するものでした。ご指摘を受け、不在の部屋へのモニターの設置やデッキ開放時間の見直し、職員の見回り強化、など体制を見直しました。また、不審者対応へのご指摘もあり、2022 年度より名札の着用を保護者を含め出入りする全員にお願いすることにいたしました。

職員への安全教育としては、散歩や保育のマニュアルや朝夕の役割分担の確認はもちろんですが、この 1 月の事故を含めて、過去の事故を、毎年全職員に向けて、確認することにいたしました。

子どもの安全を確保しながら、主体的な活動を保障していく、という課題に、保護者のご理解とご協力をいただきながら、来年度以降も真摯に取り組んでまいります。

以上